

KYOTO EXPERIMENT 2013
京都国際舞台芸術祭 Kyoto International Performing Arts Festival

10.12 SAT - 13 SUN

KYOTO ART THEATER SHUNJUZA 京都芸術劇場 春秋座

木ノ下歌舞伎による、
見たこともない、動く博物館
敬して遠ざけない、古典芸能の遊び方

木ノ下歌舞伎ミュージアム

SAMBASO

「ガッパ」とぬか子三番叟

監修：木ノ下裕一 総合演出：杉原邦生 特別出演：茂山童司



京都を拠点に、歌舞伎の演目を現代の視点で捉え直してきた木ノ下歌舞伎。主宰・木ノ下裕一の指針に基づいて、演目ごとにさまざまな演出家を起用しながら上演を果たしてきた。『三番叟』は、2008、12年にも、木ノ下裕一監修、杉原邦生演出で上演され、13年には海外公演も実現した人気のダンス作品。再演するごとに更新を続けて、木ノ下歌舞伎の躍進を計る格好の演目になっている。今回は、劇場内をツアー形式で巡るレクチャーパフォーマンスで木ノ下歌舞伎の古典芸能へのアプローチ法を体感できるスペシャルな企画。杉原邦生の新演出による狂言師・茂山童司の「三番三」、春秋座の各所に設置された「三番叟」の歴史に関する様々な展示、そして木ノ下歌舞伎『三番叟』フルバージョン。これで「三番叟」のことがバババッとわかる！

2013

10.12 SAT 15:00-19:00-
13 SUN 13:00-17:00-

上演時間 120分 ※開場は開演の30分前

※©印は託児有(有料:¥1,500、要事前予約 ㄨ切:各公演4日前)

予約・お問合せ: KYOTO EXPERIMENT 事務局 TEL 075-213-5839 (平日 11:00-19:00)

※13日13時の回は未就学児入場可。保護者の膝上のみ無料。

お席が必要な場合は、高校生以下のチケットをお買い求めください。



木ノ下歌舞伎がSAMBASOの歴史に新たな1ページを書き加える。劇場内をツアー形式で巡るレクチャーパフォーマンス。

木ノ下歌舞伎の意義 渡辺保(演劇評論家)

木ノ下歌舞伎は、日本の古典劇の一つである歌舞伎を現代の演劇として再創造する試みである。

たとえばその試みのもっとも成功した「三番叟」。

もともと「三番叟」は、日本の四つの古典劇一能、狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎のすべてにおいて、そのプログラムの

冒頭において必ず上演される儀式劇である。この伝統は遠く能に始まって今日に及び、日本の古典劇が神に捧げられるものあることを象徴している。

木ノ下歌舞伎は、その象徴の構造を一つのドラマとして描いた。すなわち神の言葉が人間に伝えられ、それを伝えることによってその人間が権力者になり、その権力者

はその伝達によって民衆を統治し、その末端の私たちの家庭を支配し、かつ保証する構造をドラマとして描いた。これは単に「三番叟」の再創造であるばかりでなく、日本の社会の構造の鋭い暴露と批判であった。木ノ下歌舞伎は単に古典の再創造であるばかりでなく、すぐれた現代の演劇なのである。

木ノ下歌舞伎ということ 渡邊守章(演出家)

大学生が同好会的に歌舞伎の真似事をするという事は、半世紀以上前の学生の間でも存在した。しかしその頃は、十五世羽左衛門は戦争中に亡くなって観ることは出来なくても、六代目菊五郎も初代吉右衛門も、七世幸四郎も健在であったし、戦後の混乱の中でも、歌舞伎には、能狂言や文楽とは違った意味ではあれ、規範というものがあったように思う。そういう状況の中では、学生のクラブ活動としての歌舞伎などというものは、お道楽の域に

すら達していないものであった。そもそも、俳優座研究所では、千田是也氏が、歌舞伎など見るのは許しがたいことだと宣言していたし、後に俳優座が『四谷怪談』の通しに挑戦するようなことは、想像もつかなかった。こうした禁忌を打ち壊したのは、言うまでもなく小劇場運動の第一世代であったし、木ノ下裕一が主宰する彼の名を冠した「歌舞伎」も、その系譜にある。私としては、その舞台をすべて観ているわけではなく、むしろ、舞台芸術学科の実技の授業で演出助手をしても

らって、それなりの「筆法伝授」をしたつもりにはなっている。その舞台については、「踊り」部分は概して好評であり、問題は、ほぼ常に「台詞劇」にあることは、前作の「義経千本桜」なども顕在化している。芝居をやるという奴が、大学なんぞに居ることはないと言った、新劇・小劇場的「蕃カラ」は、もういい加減に捨てたほうがよい。木ノ下歌舞伎に期待されることは、当人たちの意識する以上に大きいと言わねばならない。

一般 ¥2,500 シニア(65歳以上) ¥2,000 ユース(25歳以下) & 学生 ¥2,000 高校生以下 ¥1,000
※全席自由 ※シニア・学生・ユースは要証明書提示 ※当日券は前売券+¥500(高校生以下は同額)

- チケット取り扱い
 - KYOTO EXPERIMENT チケットセンター(11:00-20:00、9/22まで日曜休)
 - 窓口 | 京都芸術センター 2F TEL | 075-213-0820
 - オンライン(要事前登録) | <http://kyoto-ex.jp> (PC) <http://kyoto-ex.jp/m> (Mobile)
 - 京都芸術劇場チケットセンター TEL | 075-791-8240 (平日 10:00 - 17:00)
 - 劇場オンラインチケットストア(要事前登録) <http://www.k-pac.org/> (PC) <http://www.k-pac.org/theatre/m/m> (mobile)
 - 京都芸術センター(10:00-20:00) 窓口販売のみ
 - チケットぴあ TEL0570-02-9999 Web | <http://pia.jp/t> (Pコード: 430-477)

■ お問い合わせ KYOTO EXPERIMENT 事務局(平日 11:00-19:00)
〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2 京都芸術センター内
TEL 075-213-5839 FAX 075-213-5849 E-MAIL info@kyoto-ex.jp URL kyoto-ex.jp

監修: 木ノ下裕一 総合演出: 杉原邦生 特別出演: 茂山童司

木ノ下歌舞伎『三番叟』 原案・監修: 木ノ下裕一

演出・美術: 杉原邦生 出演: 芦谷康介・京極朋彦・竹内英明

照明: 魚森理恵 檜木順子 音響: 齋藤学 映像: 須藤崇規 衣装: 清川敦子 演出部: 楠海緒 舞台監督: 大鹿展明 文芸: 関亜弓、稲垣貴俊 宣伝写真: 堀川高志 宣伝美術: 天野史朗 制作: 本郷麻衣 製作: 木ノ下歌舞伎 共同製作: KYOTO EXPERIMENT 主催: KYOTO EXPERIMENT

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭2013 ○主催: 京都国際舞台芸術祭実行委員会(京都市、京都芸術センター、公益財団法人京都市芸術文化協会、京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター、公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) ○共催: 立誠・文化のまち運営委員会、京都府立府民ホールアルティ ○協力: Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・バルク] ○協賛: SHI/EIDO トヨタ自動車株式会社 ○助成: 平成25年度文化庁国際芸術交流支援事業 独立行政法人日本万国博覧会記念機構 Asahi アサヒグループホールディングス 公益財団法人セゾン文化財団 ○認定: 公益社団法人企業メセナ協議会 M.

会場: 京都芸術劇場 春秋座
京都市左京区北白川瓜生山 2-116 京都造形芸術大学内



- JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅より、京都市バス5系統「岩倉」ゆき「上終町京都造形芸大前」下車すぐ(京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)
- 叡山電車茶山駅より徒歩10分

※駐車場はございませんので、お車・バイクでのご来場はお断りします。